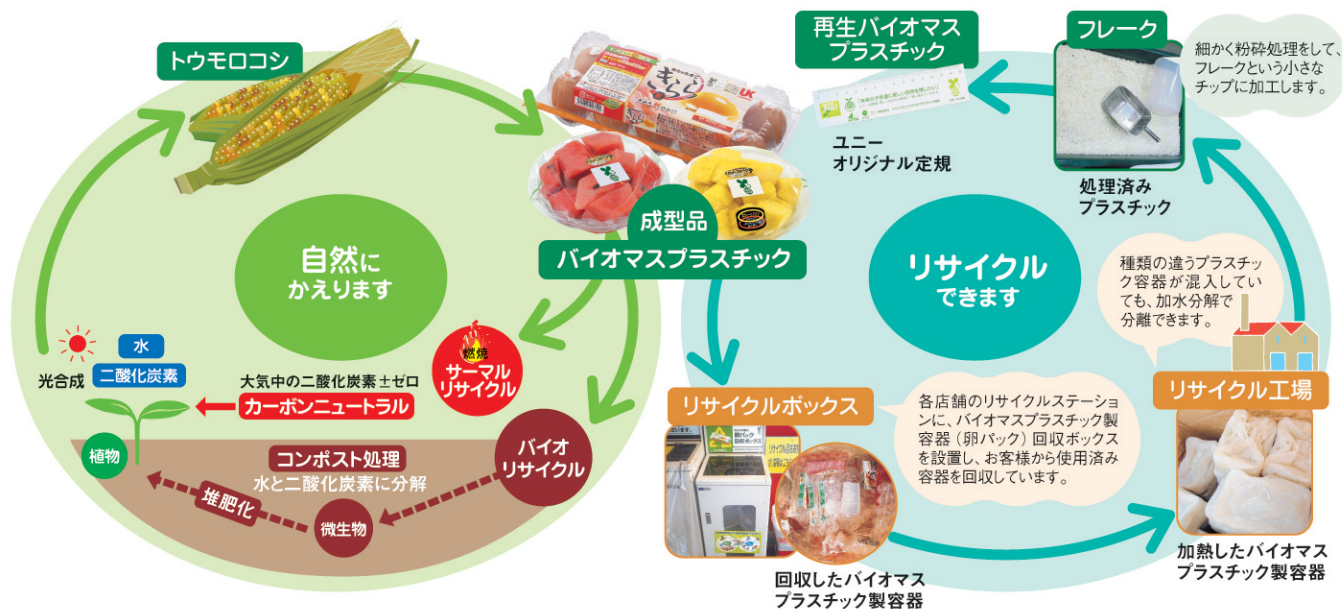


3 サスティナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

▶ バイオマスプラスチック製容器の使用

容器包装に使われるプラスチックの原料は、ほとんどのものが石油です。石油は地球に残された量がたくさんあるわけではなく、近い将来には使い切ってしまう恐れがある貴重な資源です。使い捨てられる容器包装に、そのような資源を使ってよいのでしょうか。また、石油は化石資源なので産出するときも廃棄するときもCO₂を排出し、地球温暖化に悪影響を与えます。そうしたことを考えて、ユニーでは2006年より、植物を原料にしたバイオマスプラスチック製容器を使っています。植物は光合成により地球のCO₂を吸収して成育し、また繰り返し栽培できることから、サスティナビリティ（持続可能な）原料です。



バイオマスプラスチックの特徴

- 1 石油に代表される化石燃料の節約になる**
トウモロコシのような植物生まれの原料を使うことで、限りある化石燃料が節約できます。
- 2 二酸化炭素を増やさない**
バイオマスプラスチックを燃やしても、もともと含んでいた二酸化炭素が自然にかえるだけで、地球上の二酸化炭素の増加にはつながりません（カーボンニュートラル）。
- 3 微生物の力で水と二酸化炭素に分解**
生ゴミなどの堆肥に入れると、微生物によって水と二酸化炭素に分解され、廃棄物になりません。
- 4 リサイクルできる**
使用済みバイオマスプラスチック容器を回収し、再生資源としてリサイクルしています。



バイオマスマーク

動植物を原料としたプラスチック
使用後は水と二酸化炭素に分解され、
自然に戻ります。

▶ バイオマスプラスチック実証委員会

ユニーでは2006年より、卵パック（きらら10個入り）とフルーツケース（店頭販売用とカットフルーツ用）にバイオマスプラスチック製容器を採用しています。これは、従来の石油を原料としたPET製容器に比べ、製造・廃棄（焼却処分など）時にCO₂の発生抑制効果があり地球温暖化防止になります。さらに2007年からは、九州工業大学・北九州エコ・サポーターズ（NPO）・（株）武蔵野化学研究所とともに、使用済み容器の店頭回収並びに原料リサイクル（ケミカルリサイクル）を進め、2008年度には再生バイオマスプラスチックの製品化が実現しました。

▶ 高分子学会グリーンケミストリー研究会

なごや環境大学共育講座の共催

2009年10月、研究者と事業者が一般消費者に「バイオマスプラスチック」を知ってもらうことを目的としたセミナーを、「バイオマス由来包装資材の循環利用の展開に向けて」をテーマに開催しました。石油由来のプラスチックの生産・消費に代わる循環型システムを構築することにより、社会に蓄えられている膨大な資源（使用済みの製品や素材など）を有効に利用することで、資源問題や輸入原料価格の変動などの問題が緩和されと考えられます。地球に限りある資源である化石燃料（石油・石炭など）ではなく、持続可能な資源であるバイオマスの価値を消費者に知ってもらい、利用拡大を図り、低炭素社会構築につなげていきたいです。

